いわき民報
發行所 いわき民報社 平市田町一番地（電話三八一番）
編輯發行人 印刷人 千輝克己
日刊（但月曜日を除く）定價一ヶ月五円 一部二十錢

坂妻の
國定忠治
公開迫る
聚樂館

# 市營青果物市場新設
## 舊市役所跡に自由販賣制で
## 十四日の勸業委員會に附議

市では五百圓の裕に苦しむ市民のため、切めて野菜だけでも圓滑に配給せしめたいと、荷受組合を結成せしめて努力の結果、昨今漸く野菜類も潤澤に出廻り始めたもの、從來の實例からみてこれも恒久的のことでないとみられるので、この際市として市營青果物市場を新設、荷受機關と併立せしめての恒久的對策を講ずべく關場勸業課長の手許で研究中だつたが、大体の成案を得たので、十四日午前九時から勸業委員會を召集、その檢討を求めた上、急速に實現せしめることに決定した、右市場は七萬圓程度で田町の舊市役所跡地に約三百坪程度のものを建設平窪方部農家を始め市近郊町村の農家を中心に、自由に出場させて、こゝでは凡ゆる野菜果實類を公定を基準に自由販賣せしめるものである、尚將來は公設市場として野菜類に限らず、凡ゆる副食物類その他日用品の出品をも認めて、市民はこの市場へゆけば當面のお臺所は勿論日用品類は一切間に合ふといつた具合にせしめる構想の下に諸計劃を進める肚とあるが、市民にとつては大きな福音として期待されてゐる

## 荷受機關をも强化

市では別項青果物市場の建設と併行し、現在の荷受機關にも相當額の助成をなし、荷受機關に對しては郡內遠隔地及び郡外その他縣外の青果物野菜類の集荷に、多年の經驗を生かして活動させ、運賃等にも助成して市場側と大差なく價格を以つて、隣組を通じての配給を建前に働かせ、場合に依つては自由販賣をも許して、市場の設立に依つてその機能を失はしめぬやう强化の方途を講じ、市民のため一層の活躍をなさしめる計劃であり市場側との摩擦を避けるため組合代表を市場の顧問等に推薦市場運營上のよき相談相手たらしめることになすことゝなつてゐる

## 町當局自身 解決へ
### 小名濱漁業會の役員辭任問題へ

大漁網契約問題に絡む小名濱漁業會一部役員の辭任について、町も憂慮、業界の元老水野政次郎氏も四圍の懇請により乘出し野崎、比佐氏等に面接、辭表撤回を申入れたが、各役員とも家事上万已む得ぬ旨を理由に飜意を示さぬので、水野氏も手をひくの外なしとの意向を示してゐる、町當局並に町議連も捨て置けずと御代漁業會長が病氣入湯中なので、その歸來を待つて解決に乘出すことになつた

## 濱三郡養蠶連絡協議會

縣の蠶糸業五ケ年計劃に基いて先づ急速に桑園の增反を實現せしめるため、地方事務所蠶糸課では來る二十五日平市湯殿山社務所に濱三郡蠶糸代表者連絡協議會を開催、增反割當並にこれに要する桑苗手配その他について協議を遂げる

## 馬の共進會
### 郡下四方部で

郡產馬組合では優良馬の增産をはかつて今年から優良馬の共進會を開催するが、食糧、輸送などの点を考慮して郡下四方部に分けて開き賞金も全部で五千圓贈ることゝした、開催期日場所は近く發表の豫定

## 平高女を縣立へ
### 明日伊藤市長等が出縣陳情

平市では市立平高女を明二十二年度から縣立に昇格せしむべく猛運動を開始することに決定、先づ明十二日伊藤市長及び委員たる萩原、永山正副市會議と關內、蓮沼兩縣議が出縣陳情することに決つた、全高女は去る昭和十七年四月の創立で、本春三月第一回卒業生を出したが、學級數は二十六學級の教職員二十六名、生徒數は七百名に及び縣立高女と何等劣らぬ內容の充實したもので本年度の豫算は三十四萬圓を計上してゐる

## 柿と大根 大量入荷

青果物荷受組合に十一日會津から柿五千百貫、相馬、田村兩方面から大根二千七百貫計七千八百貫入荷、相次ぐ蔬菜の山に組合側も悲鳴を擧げ希望販賣やら配給に大童となつてゐる

## 秋冬綜合作付計劃

農業會郡支部の秋冬綜合作付計劃はこの程纏つた、水田耕作面積八千二百六十二町一反二畝のうち水田二毛作は一割四分强に當る一千二百二十町步で畑地の綜合面積は四千九百四十町九反三畝、うち馬鈴薯の四百三十九町を筆頭に大麥二百七十六町、小麥六百七十三町、果樹桑その他永年作付五百四十一町等とある

## 總工費百萬圓
# 圖書館も併設
## 町村長會の自治會館建設計劃

石城郡町村長會では町村制改正記念に自治會館を建設することに決定、十四日の評議員會にはかり具体的方策を決定する、總工費百萬圓を投じて市內小太郎町地內二百坪に建設、各種團体を網羅して公民の指導に當るが、郡市民の特志寄附を募つて十一月初旬着工、十二月中旬竣工の豫定とある、同館には圖書館をはじめ各種資料陳列室も設けて地方文化の敎養に當るとあり郡民の期待するところ頗る大きいものがある、なほ二十日午前十時から町村長會を招集、醵金其の他について協議する豫定とある

## 電產スト示威大會
## 十三日平・植田・小名濱で
## 十五日には湯本に炭礦大會

電產スト濱通り地區委員會は陣容を强化して活潑な宣傳戰を開始したが、十二日午前十時から本部に炭鑛代表者會議を招集、全勤勞者の意識昂揚のため十三日午前九時から平驛前、植田町小名濱町の三ケ所で勞働者大會を開催、大會後デモ行進を行つて各市町村役場、勤勞署、警察署にも示威をなすことゝした、更らに十五日湯本町で炭鑛勞働者大會を開き、吉田內閣打倒の演說會をも催し飽迄闘爭に入ること決定、各加盟團体に檄を飛ばした

## 借家人同盟も

平借家人同盟も十一日濱通り地區闘爭委員會に加盟四十一組織となつた

## 晩秋蠶 目標に達せぬ
### 種不良と旱魃で

郡下の晩秋蠶の集荷はいよ〱開始、目下最盛期であるが、八日現在までの成績は五、六九〇貫とあり十二日頃迄には完了の見透しである、尚蠶況は遺憾ながら原蠶種の不良と旱魃による桑の成育不良による桑葉不足等で遂に目標の一万貫實破は全然夢と消えたので明年こそはと今から準備挽回しやうと早くも計劃を進めてゐるが地方事務所蠶糸課では惡天候下の集荷なのでこの際成るべく早く完了せしめる樣督勵中とある

## 順調な甘藷供出
### 一兩日中で完遂の見透しつく

郡下の甘藷割當は四十七万貫と決定したが、百二十萬貫の收穫見込數を裏切つて大豊作のため十一日現在で既に四十五貫達成殘る二万貫も今明日中の見透しがついた、尚地事では郡下七方部に甘藷政府買入推進班を編成各町村にくり込んでいもに挑んでゐる

## 全日本庭球へ
### 平倶の三組出場

全日本庭球東西對抗大會は十三、四の兩日四日市で開催されるが東日本代表として平倶樂部の宮川、齋藤組、小川、志賀組、關部、大內組の六選手が出場に決定十一日十時五十分平發列車で出發した

## 郡下各町村の選擧官理委員

地方制度の改正に伴ひ郡下各町村の選擧監理委員の解觸もこの程左の如く決定した
▼渡邊村吉田清三、蛭田高知、高木己之次、齋藤茂吉▼豊間町小野照道、鈴木德一、白土六郎、岩下啓助▼錦町篠原德雄、瀬葉正、小宅嘉惠藏、渡邊初太郎▼飯野村永山亮太郎、大和田祐之、佐藤平吉、鈴木榮太郎▼神谷村木村幸雄、須藤孝松、阿部善松、志賀忠五郎▼赤井門馬治、松崎珍平、阿部義隆、佐藤齋光▼鹿島村赤阪稔、鈴木光彥、志賀直哉、谷平憲持▼澤渡佐藤清司、吉田正雄、根本保治、涌井清水▼永戸村阿部佐平、柴崎佐七、高荻國太、草野下吉

## 小名濱寫友倶樂部 入選作品發表

小名濱寫友倶樂部主催で去月二十五日小名濱海岸に於ける競寫會の作品百余点は下山田勝彥氏審査の結果左の通り入賞した
▼一等（風景）岡山武、內山道守、丹勇太郎▼二等（人物）岡山武、內山道守▼三等（風景）小野清明、內山道守（人物）內山道守、草刈乙彥、小野清明▼佳作田島繁夫、今井迷水、久保田文雄、佐川繁夫外十余名

## 濱三郡救濟物資打合會

濱三郡救濟用配給物資打合せ會は十一日午後一時から平市公會堂日本間で開いた

## 石坂投手
### 三田稲門戰に出場

平倶樂部の投手石坂光雄君は十二、三兩日名古屋鳴海球場で開催される三田稲門戰に出場する

## いわき寸言

▼平市で將來は公設市場に迄の發展を目指し青果物市場を舊市役所跡へ建設するとある、眞に適切な計劃として喜ぶ殊に荷受機關との摩擦を避け、荷受機關の强化も考慮するのは賢明な策▼町村長會百万圓を投じて自治會館を建設するとある、特に圖書館をはじめ文化資料の蒐集もして文化方面の指導にも力を入れるとあるが嬉しい限り、一日も早い實現を望む▼石炭增産に一般の協力を求めるために商工局平出張所內に增炭委員會事務所を開設、各種資料を集めて宣傳戰に馬力をかけるとある、賢明な策ではある

初代名華天勝伊東マツノ事昨秋ヨリ病氣ニテ引退再三仙臺帝大病院ニテ加療セシモ藥石効無ク去ル八月十三日郷里ニテ永眠仕リ候
雪組花組各座長ヲシテ同組二代目襲名引續キ巡業致サセ置キ候條何卒故人同樣御引立ニ預リ度ク茲ニテ葬儀ハ左ノ如ク執行仕ル可ク茲ニ故人生前ノ御愛顧御後援ヲ深謝シ併セテ御通知申上候
告別式　十月十五日午後二時福島縣平市驛前伊東興行事務所
本葬　十月十六日午後二時同縣石城郡植田町常春院
昭和二十一年十月十二日
施主 本家　佐藤政秀
雪組二代目　伊東一
花組二代目　松島麗子
常磐假設興行事務所 分家　長谷川愛子
常磐露商組合長 分家　小關小四郎
諸演劇演藝取扱 分家　藤木太一郎
同 分家　松林辰雄
土木建築請負 分家　小久吾
鈴木組一同
伊東一家身內一同

開業御披露
自動車修繕は
親切で確實で迅速な
水野自動車修理工場へ
水野二郎
平市長橋町性源寺東角
▷電話連絡は678番へ◁

# 市町村制改正法律案要綱【下】

## 市町村長及其他吏員に關する事

市町村長選擧は

一、市町村長は市町村會議員の選擧權を有する者が市町村長の被選擧權を有する者について直接これを選擧するものとし法定得票數を八分の三として、もし法定得票數に達する者がない場合においては、最多數の得票者二人について決戰投票を行ふものとすること

二、市町村長の被選擧權は年齡二十五年以上の日本國民たる者に對してこれを認めること

三、市町村長の選擧に關する事務は市町村會議員選擧管理委員會がこれを管理するものとし、その選擧に關しては概ね市町村會議員の選擧に準ずるものとすること

四、市町村長の兼職に關する禁止制限を緩和すること

五、市町村會が市町村長の下信任の議決をした場合には市町村長は、十日以內に市町村會を解散することができるものとし、これを解散しない場合及び解散後の市町村會において再び不信任の議決をした場合には市町村長は退職しなければならないものとすること

助役の選任は

六、市町村助役は市町村會の同意を得て市町村會の同意を得て市町村長がこれを選任するものとすること

七、特別の事情がある町村では助役を置かないことができるものとすること

八、市町村長及び助役の退職申立期間を短縮すること

九、市町村長は市町村內の團體等の活動の綜合調整を圖るためこれを指揮監督することができるものとすること

十、市町村長は市町村長會及び市參事會の違法又は明かに公益を害する議決について、これを再議に付さないで直ちに府縣知事の裁決又は指揮を請ふことができないものとすること

參與は任意機關

十一、參與は市町村會の同意を得て市町村長がこれを選任するものとしなほ町村においても參與を任意機關とすること

十二、委員は常設又は臨時とし市町村會議員その他學識經驗のある者の中から市町村會の同意を得て市町村長がこれを送任するものとすること

考查役制度廢止

十三、市町村はその事務を監査させるため、市町村條例を以て監査委員を置くことができるものとすること。但し第六條及び第八十二條第一項の市はこれを置くことを要するものとすること。市の考查役制度はこれを廢止するものとすること

十四、市町村長が市町村會又は市參事會の權限に屬してゐる事件について專決處分をしたときはこれを市町村會又は市參事會に報告してその承認を求めなければならないものとすること

十五、市町村長は市町村會の指定した事業については、その經營狀況を明にするために定期に貸借對照表その他の書類を市町村會に提出しなければならないものとすること

## 市町村自治强化及其他に關する事項

監督規定の整理

一、市町村の廢置分合、境界變更及びこれに伴ふ財產處分竝びに市町村組合及び町村組合について府縣知事が處分をするときは關係ある市町村會等の議決を經なければならないものとすること

二、現役及び召集中の軍人の公務に參與する權利を認めること

三、市町村に對する監督規定を徹底的に整理すること

四、異議の申立は原則として市參事會又は町村會に諮つてこれを決定するものとすること

行政區制度廢止

五、行政區の制度を廢止すること

六、市町村は市町村會議員、選擧長投票分會長及び立會人竝びに町內會部落會及びその聯合會の長に對して報酬を與へることができるものとし市町村會議選擧管理委員會、市町村會及び市參事會の書記に對しても給料旅費退職料を支給するものとすること

過料過怠金引上げ

七、過料及び過怠金の額を適當に引き上げること

八、現任市町村會議員は改正法律により初めて行はれる議員の選擧の期日までの間はなほその職にあるものとすること

九、北海道における町村の特例を廢止すること

十、戸籍法の適用を受けない者の議員の選擧權及び被選擧權(改正法律施行前は公民權)竝びに市町村長の被選擧權は當分の間これを停止すること

十一、右の外市町村の自治の强化の必要その他現下の市町村の實情に鑑み必要な改正を加へること

## 開放

投書を歡迎す 要望批判結構 紙上可名函

### 今日この頃

▼…商工會議所設立問題を繞つての山崎與三郞氏と永山勇吉氏の應答は〃穩〃と〃劇〃との相違であるといふべきか?再建日本の一問題である會議所の會頭によき人を得る事は重大問題である

▼…今までの考へで結局はこの人あたりが穩當なのだ――であまうめるべきではない。人を選ぶのは吾々商工業者個々の頭に於いて自由であるのであるからよく〳〵熟慮し悔ひのない人選をしたいものではある

▼…借家人組合がオリオン座建設に反對してゐるのは已むを得ぬことの樣に思はれる、然し大平市建設の將來性を考へると劇場の建設も亦已むないもので一面には贊成である

▼…然も市の美觀美裝といふことを願ふ上からは、吾等にはその一日も早く出現を要望したいところであると思ふ、既に當局の認可もあり建設されるばかりになつてゐるのを中止させるのは惜しい限りだ

▼…すべて大乘的見地から見て苟くも平小鐵道の往年の愚の二つ舞を演じないやうなことにしたいと切に念願してやまない (杉平愛市生)

### 交通問題

▼…交通道德が喧しく叫ばれてゐるのも拘らず相變らず市內の交通は亂雜そのもの、殊に各中等學校の放課后の狀態といつたらばお話にならない

▼…と同時に子供達の道路上での遊戲も相變らずやまらない、自動車、自轉車の交通上にも亘に遺憾であり又危險この上もない

▼…これは學校當局の注意も大切だが一面には家庭のお母さん達の十分な家庭敎育に待たねばならないところである、學校と家庭との連絡を密にして若少し交通道德に協力して貰ひたいものと念ずる (北目住人)

## 生活と文化

### 石城歌話會詠草

○ 大和田 徹

海風は冷たし生きて歸りたる身を松原に投げて物思ふ

岩を嚙む怒濤のなかの現身の吾のなげきはとどろきわたる

○ 渡邊 浩子

おもむろに山のかげより月出でて吾が行く前の道を照らせり

山かげにかがよひながら秋の夜の月は今しものぼり初むらむ

○ 紺木 哲

妖しかる複合体の色どりの甸へるを見たり曉の潮べに

まむかひの山みな親しわが村はいとけなき日と變らずてあり

○ 仁平 次敏

明月を祭る今宵は枝豆の青臭くして子等の偲ばゆ

數へ子を强く叱りて扉に立てば黍の葉ずれの寂しかりけり

○ 玉川 一夫

いとし子の復員待てどかなしくも歸り來ぬ便り今着きにけり

引揚の姉夫婦の家を訪ぬれば小さき店に瓜など並べあり

○ 渡邊 久

祭とて兒が買ふて來しトラックの疊を走る音のさやけさ

きよらかに掃かれし庭は白萩の花はつ〳〵にこぼれそめつゝ

○ 今野 忠治

うつそみのいのちのはてをおもひゐつすいと鳴きすむ蚊張ぬうちにわれは

生き死には常なきものと知るといへば他國に來ておもふわびしさ

○ 白木 英尾

秋草をこそりとちぎりかみてをりかなき思ひわきいでにけり

若き日に購ひたるが哲學の書をふたたびは繙くいとまなし

○ 諸橋 茄枝

道のへにもとな引く拔く稗の穗の乾友も見えて秋闌けにけり

朝心天にしき啼く百舌鳥の音のわびしき迄に願はすは誰ぞ

○ 鈴木 博

秋蝶のちさき白蝶流れ來て流れゆきたりこんにやく畑

庭に出てひとり稗燒く宵さむし厩に馬の歩む音する

○ 高木 ツルヨ

病みこやる病舍の庭のうめもどき赤らむ見れば時たちにけり

○ 藤橋 清一

朝の戸をあくるたちまち視野に入る秋青空のはてしなきかな

三とせあまり眼を病みてをりかたくなのわが病根を深きを思ふ

○ 小濱 常司

小さき穴の奧どにかくるる蟹捕ると息ひそませて子等の堀りゐる

砂濱の果ての眞白き燈臺はしんかんとして陽をはぢきをり

○ 赤井 嶽三

目路はるか夏山越しの海原は空の青より濃く漂へり

白壁の倉たつ家もあばらやも物をほしたる土用のまひる

○ 佐原 喜久司

時化過ぎし海をりふしはあをあをと寂しきまでに流れを見せぬ

秋に入る凉しさならむにられたるミルクのいろを今朝をしみをり

○ 高木 愛二

移り來てさ庭べ拓き植ゑし茄子わが家の汁に足りてなりつぐ

吾がいゆく峽のなだりは霧立ててまつかに咲ける彼岸花の群

○ 大町 三咲

斜坑の暗き奧がに電燈の點々としてともりをりけり

濁り水たまりし道をゆかんとしておのれの顏はうつりゐたるも

○ 門馬 利治

歸り來ぬ友を想へば秋虫のすだくも哀し更げて行く夜半

いねられず厠に立てば肌寒く虫の音止みて夜汽車走れり

○ 高萩 清

返し來る電車待つ間のしばらくをくづれゆく雲見てゐてゐてあかず

假立ての鹽燒き小屋の並びゐる濱のにぎはひ朝に始まる

○ 可兒 韶

ふきすさぶ風に舞ひ行く切紙にひとしほ寒き冬枯の道

メーデーにありし日の父想ひ出て時の過ぐるも知らで語らふ

○ 草野 硯庵

底知れぬ溪間の淵の水ずましうつらふ雲の峯の上ゆく

とくおきて大根の虫拾ひをれば百舌鳥裏山に癇高く呼ぶ

## あゆみ

外村 潔

彼は彼女の總てを知り盡してゐた。長い淸い交際は戀と稱するには不自然な程の親密さを齎らしてゐた。彼は彼女に對して大きな理想と希望を持つてゐた今迄の女性は男性に比べて(一般的に)知的方面の水準が低かつた。男女同權、女性解放を外に叫ぶ前にその女性が內に自らを省みた時に果してそれを要求する資格があるだらうか?彼はこう考へついた時彼女に向つて嚴かに申し渡した。『女性自体の爲にもつと勉强しもつと努力しなければ同權にはなれぬ解放も不可能だらう』と。彼の意圖を知つた彼女はそれから猛烈な勉學と勞力を捧げた。彼が余暇に――それは道樂に近かつた――蒐集してくる本を片端しから讀破していつた。今迄も讀書を遠ざけた彼女の生活は幸に無かつたがリーダーがゐてテキストを提供してくれはしなかつた唯自分の好みに合つた本のみを讀んでゐたに過ぎなかつただけに彼の許から持込む本の中には未知の世界に關するものが少くなかつた。尤も彼の所藏する書籍は彼の趣味に合つた部類のものに限られてはゐたが……。

女性が立起る爲の前提としての苦しみの一つとしての讀書は中々樂ではなかつた。勉强する方法は多かつたが彼女はその一つとして讀書に依る方法を採つた。(勿論彼の助言の左右する處であつたには違ひないが……)毎日の殘業に疲れた身体を深夜まで鞭うちつゝ讀書は續けられて行つた。彼は勿論彼女をリードするに足る讀書を續けてゐた。彼と彼女は讀書する事を通じて同じ方面に進んでゐる。一層親密になつてきてはゐるがそこに何等の危つかしさは微塵も感ぜられない。お互に理解し尊敬し合ふ美しい協同体の確實な歩みであつた。

寫眞の御用は
新裝のスタヂオが皆樣をお待ちして居ります
小名濱町本町
助川寫眞スタヂオ

視力試驗設備が有ります
進む文化に守る視力
眼鏡 專門
各眼科醫指定
玉屋
平市二丁目

外科 諸橋鐵彌
內科 松本源一
平市鍛冶町
金成醫院
電八二六番